

災害時における 被災建築物応急危険度判定業務に 関する協定締結式

大石田町



山形県建築士会村山支部

5月31日(金)に協定を締結



大石田町と山形県建築士会村山支部による「災害時における被災建築物応急危険度判定業務に関する協定締結式」が、5月31日(金)にあつたまりランド深堀で行われました。

この協定は、地震等の災害時に余震等による二次災害を防止し、住民の安全の確保を図るため、建築物の被害状況の調査・危険度の判定・表示等に協力していただくものです。本協定では震度5弱以上の地震が発生し、相当数の建物被害が確認された際、本協定に基づき被災建築物の被害状況調査の技術的な支援や、応急危険度判定などの協力・支援が行われます。

～温かい善意をご紹介します～

【大石田町へ】



株式会社友企画 様

教育環境の整備に係る経費として
100万円

渡會 哲夫 様

町図書館へ児童図書の購入に
10万円



大石田ライオンズクラブ 様

町のブックスタート事業に
3万円

【ボランティア虹の会へ】



北郡信用組合 様

ふれあい食堂の活動に
炊飯ガス釜運搬用台車、
ステンレスワイヤーシェルフ

アラハタ株式会社山形工場 様

こども食堂の運営に
バナナ13kg×15ケース



▲ふれあい食堂として実際にお弁当が渡される様子。同事業は、食を通して新たなつながりを生み、支え合う関係を育むために行われているものです。

町長コラム 「次世代へ虹をかける」

vol.6



「繋ぐ文化」

こんにちは！先日行われた中学校の地区総体、学校から何度も送信される各部活の試合結果に一喜一憂した庄司です。大中学生の皆さん感動をありがとうございました。さて、今回は以前、東京日本橋人形町の商店街副会長である呉服屋の社長さんと一緒に飲んだ時に教えられて心に残った話をしたと思います。

呉服屋さんから「庄司くん、『文化』って何だと思ってる？」と聞かれ、即答できないでいると、「着物はさあ、もう『着る文化』じゃなくなっただんだよね。購入したら普段は着ないでしまっておく、特別な時にしか着ない『大事にとっておく文化』になってしまったんだ。そうなるよ、何が起きてると思う？消費しなくなるから、売れない、作らない。それで職人さんが辞めちゃってどんどんいなくなっているんだよ。着物の着付けも皆知らなくなる。結果、悲しいことに製造

これから本格的な夏を迎え、町民の皆さんも「べそら漬」を作られ、食卓に上るかと思えます。皆さんのご家庭で代々引き継がれてきた「べそら漬」の味をぜひ繋いでもらいたいと願っています。大石田の「食文化」守っていききたいですね！！

大石田町長 庄司 中